



あの手この手で考えて、あの手この手で問題解決！

9月号
2021

あの手この手のマークの間のSは solution(解決)のSです。
第170号 2021年9月10日 大和市民活動センター[拠点やまと] 発行



ペテルギウス玄関
9月7日の生け花



表紙絵は「やまと国際フレンドクラブ」主催
「やまと国際アートフェスタ」
入賞作品を掲載しています。

今回のテーマは
～ささえたい、私たちの世界、いま私にできること～

AFC Yukino 賞受賞
でいそるいさん 渋谷小学校（当時1年）
《アメリカ》

タイトル：「Be thoughtful」
メッセージ：みんなに見てほしいなと思いながらかきました。
We were having hard time staying home back then,
so it's important to be nice and thoughtful each
other more than ever.
わたしたちはステイホームからもどっても、まだたいへんなこと
ばかりです。だから、いまよりもっとたくさんみんなのやさし
さとおもいやりが大切だと思います。」（訳：IFCメンバー）

「やまと国際アートフェスタ」は
「やまと国際フレンドクラブ」(IFC) *の
主催で毎年催されています。
*草の根の国際交流、外国人支援を行いながら「ともに
くらすまち 大和」を考えるボランティアグループです。

Instagram&Facebook



市民活動センターの情報を発信中！



YouTube 配信
はじめました！
各団体紹介映像を配信中

各団体の動画を見て、うちの団体も動画で紹介したい！
と思われた方はセンターにご相談ください

FMやまと
77.1 MHz



やまもり☆ホットスクランブル
大和市民活動センターだより
『やまとっこ☆みつけた』

第1.3.5(火)生放送
9:00 ⇒ 10:00
同日再放送
15:00～ 21:00

＜出演しました＞ 録音CDが大和市民活動センターにあります。

第386回 8/3(火)「やまと国際フレンドクラブ(IFC)」会長 長谷部 美由紀さん 会計監査 船越 英一さん

「やまと国際フレンドクラブ」会長 長谷部 美由紀さんと会計監査 船越 英一さんが出演しました。

「やまと国際フレンドクラブ」は大和市民国際化協会のボランティアとして活動していた国際交流パーティーの実行委員の有志メン
バーで2004年に設立された市民団体です。「出来るときに、出来ることを」をモットーに、日本、ペルー、フィリピン、ブラジル
中国にルーツを持つメンバー24名で市民レベルの国際交流、多文化共生を目指して様々なイベントを開催しています。
活動は①小中学生が描いた絵を展示する「やまと国際アートフェスタ」、②夏休み学習教室「学べ～る」③集まって、食べて、
おしゃべり「だべ～る」④インターナショナルフェスタ～国際交流+more～ ⑤にほんごで話そう！にほんごスピーチ大会
など多岐に渡ります。

「第14回やまと国際アートフェスタ」は9/24～9/26文化創造拠点シリウスのギャラリーで開催されます。また同時開催の
「おもしろ川柳」も募集中。

コロナ禍で休止を余儀なくされたイベントがある中で、「できないことを数えて残念がるのではなく、頭を柔らかくして新しい方法
を見出すことで更に充実した活動ができる！」と切り替えて活動していきたいと語る長谷部さん、「第14回やまと国際アート
フェスタ」の今年度のテーマ「～笑顔のために～」にぴったりの笑顔で語りました。

やまと国際フレンドクラブ

HP: <http://ifc-yamato.com/>



緊急事態宣言発出によりゲスト出演は9/12まで休止になっております。

★やまとっこ☆みつけた ★やまとっこ☆みつけた ★やまとっこ☆みつけた★やまとっこ☆みつけた★やまとっこ☆みつけた★やまとっこ☆みつけた★

助成金

令和3年度赤い羽根新型コロナ感染下の福祉活動応援全国キャンペーン 「いのちをつなぐ支援活動を応援！～支える人を支えよう～」



配分対象団体：こども食堂、学習支援、フードパントリー等、地域において子どもや家族、生活に困窮する方々等
に対する支援活動を実施している民間非営利団体で、法人格の有無は問いません。※営利企業、団体は対象外です。
お問い合わせ：社会福祉法人神奈川県共同募金会 TEL:045-312-6339 E-mail:info@akaihane-kanagawa.or.jp
HP:<http://www.akaihane-kanagawa.or.jp/whatsnew/229.html> 期間：～9月30日（木）必着

2021年度地域貢献助成

助成の対象となる活動：(1)自然災害に備え、いのちを守るための活動 (2)地域の自然環境・生態系を守る活動
(3)温暖化防止活動や循環型社会づくり活動 (4)子どもや親子の孤立を防ぎ、地域とのつながりを生み出す活動
(5)困難を抱える子ども・親がたすけあい、生きる力を育む活動

お問い合わせ：こくみん共済coop本部 地域貢献助成事務局 期間：～9月30日（木）

HP:<https://www.zenrosai.coop/zenrosai/csr/josei.html> E-mail: 90_shakaikouken@zenrosai.coop



第6回未来応援ネットワーク事業

貧困の状況にある子ども等に寄り添って草の根で支援を行っているNPO等に対して支援を行い、社会全体で子ども
の貧困対策を進める環境を整備することを目的に、「未来応援ネットワーク事業」を実施します。

期間：～10月4日（月）15:00※締め切り後の受付は一切いたしませんのでご注意ください。

お問い合わせ：子供の未来応援国民運動推進事務局 独立行政法人福祉医療機構 NPO リソースセンター

TEL:03-3438-4756 月曜～金曜 AM9:00～PM5:00（祝祭日除く）

（つながりにくい場合は03-3438-9942におかけください。）HP: <https://www.wam.go.jp/hp/miraiouen6th/>



大和市民活動センターは「大和市新しい公共を創造する市民活動推進条例」に基づいて設置されています。

「あの手 この手」 第170号 発行日：2021年9月10日

発行：大和市民活動センター 拠点やまと

大和市民活動センター <開館日 月～土 9:00～18:00>
<休館日 12月29日～1月3日・毎月第3月曜日>
〒242-0018 大和市深見西1-2-17

TEL:046-260-2586 FAX:046-205-5788
e-mail: yamato@ar.wakwak.com
<http://www.kyodounokyoten.com/>

ウイズコロナ、ポストコロナの時代 市民活動、NPO 活動、社会貢献活動はどうあるべきか 先駆の人を訪ねて 第1回

「何気にさらっと行動したら、援軍がずっとやって来て
どんどんつながり、次のステージへ その1」
田代美香さん（認定非営利活動法人ぐらす・かわさき副理事長）
（府中市市民活動センタープラッツ統括）

多くの都道府県に「緊急事態宣言」が発せられたり、「まん延防止等重点措置」が適用され、必要であるはずの意志ある活動ができず、出口も見えない状況となっています。

このような中、市民活動に想いがあり、実践を積んできた熱い方々を訪ねて、エールをいただこうと、今回から連載を開始します!!

第1回は田代美香さんを訪ねました。

ー 武蔵新城の「メサ・グランデ」で僕（船越）は出会ったので、田代美香さんは、コミュニティカフェの先駆者？っていうイメージを持っているんですが、これまでしてこられたご自身の活動をお話いただけますか？



フェアトレードショップの起業が市民活動とのご縁

「ぐらす・かわさき」に入って 18 年くらいかな。取材に来ていただいている、この「遊友ひろば」は 2004 年 8 月に開設されたんですが、その当時私はこの近所に住んでいました。

その前年に、川崎市の空き店舗活用制度、チャレンジショップを利用して、フェアトレードショップを起業しました。このチャレンジショップの期間は 1 年しかなかったのですが、この 1 年の間にいろいろな地域の人たちと接点ができました。お店に買いに来てくれる人たちに市民活動をしていたり、環境とかエコに感心がある方が多くて。

それまでは、地域にママ友はいたんですけど、それ以上深いものはありませんでした。子育て以前は地域は寝に帰るだけのところでしたので、フェアトレードを通じて初めて市民活動っぽい人たちとつながりができたんです。

青年海外協力隊で、ホンジュラスに赴任した経験

ももとは百貨店で仕事をしていたのですが、ボランティア休職で青年海外協力隊に参加して、ホンジュラスでマヤ遺跡の発掘調査に携わって帰ってきました。復職後は、その経験を活かして、日本の社会に還元しなきゃと思い、公益財団法人プラン・インターナショナル・ジャパンの海外の子

8 月 1 1 日（水）の午後、登戸駅を降り、駅前交番で場所を確認して、待ち合せの「ぐらす・かわさき」の当初の拠点である「遊友ひろば」に向かうと田代美香さんは施設の前で待っていてくれました。なんて優しい!!

インタビューは 2 時間に及び、中身も大変濃く、示唆に富んだものになったため、今号と次号で、そのエッセンスをまとめてお伝えいたします。
（聞き手は当センターの望月則男と船越英一）

どもたちと日本人の支援者との手紙のやりとりの翻訳ボランティアをしばらくやっていました。

子育ては大変でした。上の子が 2 歳になる前に、双子が生まれて、実家にも頼れず、2 人乗りのベビーカーとおんぶでの移動で、地域の自主保育サークルとも初めて知り合い、産後のヘルパーさんとか、家事代行してくれる NPO を探し、地元の活動をちょっとづつ知ってきました。

でも仕事がしたい!! 大学事務からとびこみ営業へ

出産を機に百貨店は退職していました。

でも、仕事が好きだったので、下の子たちが 10 ヶ月のときに保育園に入れて、ちょっとづつ仕事をしたり、自分でビジネスをしたいという気持ちが起こってきました。

はじめは、自転車で行ける距離の大学でアルバイトをしました。先生方とお茶飲み話をしながら、研究室で事務の手伝いをして、パソコンのスキルをアップグレードしました。

子育てで仕事から離れていたもので、世の中の勢いについていけるかな？っていう不安があったのです。ゆるい(笑)研究室で、いろんなことをやらせていただきながら、会計とか事務的な事を覚え、少し自信もついてきました。

その後、人材関係の会社に就職しました。求人広告を取る仕事で、中小企業を回って、社長さんとか人事の方とかに、起業の想いや今後の戦略のためにこういう人材が必要とかいうことをインタビューしたことが、世の中の仕事とか社会のニーズについて学ぶ機会となりました。

中小企業の社長さんから、「これを実現したいっていう目的意識や、そのためにはこういうパートナーが必要だっというビジョンを聞くのが楽しくて、「とびこみ営業」を毎日やりましたので、度胸と根性も少し鍛えられました。



そして、「ぐらす・かわさき」と出会う

その頃、たまたまこの地域で、チャレンジショップを募集している広報をみて、協力隊での経験を活かしたいとか、百貨店に長く勤めていて、ものの生産と消費の間に単なる需要と供給や価格競争ではなく、智恵と言ったら大袈裟ですけど、意識を向ける必要があると思って、前述のフェアトレードショップをはじめて、そのときに、買い物に来てくれた人の中に、「ぐらす・かわさき」の会員さんたちがいたんです。

ーすごい！田代さん！やることなすことスピーディで、気張らずどこまでもつながっていきますね。では、そろそろ、田代さんの市民活動の原点である「遊友ひろば」と「ぐらす・かわさき」の活動に関するお話をお聞かせください。

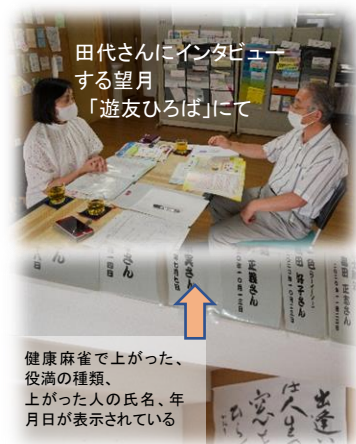
民設民営のゆるい集える場 出発点の「遊友ひろば」

「ぐらす・かわさき」は、地域のいろんな市民活動団体が、横のつながりが不足して、課題の共有がないために、ひとつの組織で解決できたことが、隣の組織で、同じようなことで行き詰っているというようなことがあるので、そのノウハウを共有できるよう、また、身近な社会課題をもちよって、課題に取り組もうとする人を応援しようと設立された中間支援組織の NPO です。

当時、「ぐらす・かわさき」では、市民活動に縁のないみなさんにも知ってもらい、活用してもらえる場づくりをしようと、空き店舗活用の補助金を使って地元の登戸東通り商店会、地域の NPO、近隣の各大学の先生方、中小企業診断士等、多くの人に運営委員になってもらって、最初のプログラムを開発して作りこんでいったのが、この「遊友ひろば」だったのです。「ぐらす・かわさき」は「遊友ひろば」で、「親子ひろば」、「健康麻雀」といったメイン事業を展開しながら、大学の先生方とも連携し、登戸の町で、商店会と一緒にゼミナールを展開。大学生の活動拠点ともなりました。

そして場だけではなく、地域の小さな市民活動にもっと元気になってもらうため、市民団体に活動資金を助成する「ぐらすサポート基金」というプログラムを結構やりました。

そのノウハウを引き継いで、いま「公益財団法人かわさき市民しきん」という別団体にスピンアウトしました。



お金があった秘密

どうして、「ぐらす・かわさき」に他団体に助成するようなお金があったかというと、当時地域で熱心に市民活動をされていた女性が、思いがけなく高額な遺産が入ったところ、地域で市民自治の力が育つようなことに使いたいということで、それを原資に設立した法人だったからなんです。

そのお金をちょっとづつ切り崩して活動すれば、他に収入がなくても 10 年は運営できる。市民活動における中間支援活動は、創始のメンバーにとってテストケースというか、自走していけるのかっていうチャレンジだったんです。

10 年はそのお金で、やりたいことをやっていけるから、その間に、この活動に共感してくれる人が増えて、自走できるしくみができれば、続くけど、共感者がなければ、終わってもいいや、それはそれで社会に一石を投じたことになるよねということで、2001 年に始まったんです。

自走できるしくみにする役割を担って

私は、「ぐらす・かわさき」の活動がスタートして 4 年目、原資が底をついても、自走できるしくみにする役割を担って、「遊友ひろば」開設の時に入りました。

その頃の私は、NPO とか全然よくわからなかったのですが、家賃とかかかるのに、お金を使ってばかりの印象。「親子ひろば」、「健康麻雀」という事業をやっても、参加費収入は微々たるもの。さまざまな講演会や、会員がやりたい学習会をがんがんやるものの、当然赤字でした。それでも会員はたくさんいました。150 人くらい。そうはいつでも会費は 3,000 円でそんなに高くないから、赤字経営はずっと続いています。

スタート時点から、お金に困ってないから、助成金に頼るとかあまりなくて、やりたいことをやって、商店街でイベントをしたり、地域通貨をつくったり、ぐらすサポート基金という助成金をばらまいてました。

市も注目するようになってきた？

でも、こういう活動がご縁で、助成金が終わった後も団体が、相談に来たり、「ぐらす・かわさき」は市内のいろんな市民活動団体を知ってるよね、信頼されてるよねという評価をいただきました。

そのおかげもあってか、「協働のルールづくり」のための調査事業や市の事業の外部評価事業などを受託して報告書を作ってきました。

2006 年からは、ソーシャルビジネスやコミュニティビジネスを育てたい市の意向と合致して、大学や産業団体と緩やかなネットワークを組もうという「たまフォーラム」の事務局を市からの依頼でやっておりました。（次号に続く）

ここまで、書いてきて予想通り紙面が尽きてしまいました。続きは次号をお楽しみにとなるのですが、一言。ここまで読まれて、ご存じない方は田代美香さんは、よほどのスーパーウーマンと思われそうですが、そんなことはまったくありません。思い立ったら即行動。勝算がいつもあるわけではない。悩みもあったのかな。でもいつも助っ人はやってくる。